



# 産業電池電源事業説明会



2025年3月17日（月）

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

株式会社 G Sユアサ 産業電池電源事業部

<b>1. 産業電池電源事業概要</b>	<b>4</b>
・ 事業の軌跡	
・ 事業概要	
・ 取扱商品	
・ 製品用途	
<b>2. マーケット動向</b>	<b>11</b>
・ 業績推移	
・ セグメント毎の動向	
<b>3. 中長期戦略</b>	<b>14</b>
・ 市場のトレンド、重点事業の方向性	
・ 個別戦略・国内非常用	
・ 個別戦略・国内常用	
・ 10年後の経営目標	

<b>1. 産業電池電源事業概要</b>	<b>4</b>
・ 事業の軌跡	
・ 事業概要	
・ 取扱商品	
・ 製品用途	
<b>2. マーケット動向</b>	<b>11</b>
・ 業績推移	
・ セグメント毎の動向	
<b>3. 中長期戦略</b>	<b>14</b>
・ 市場のトレンド、重点事業の方向性	
・ 個別戦略・国内非常用	
・ 個別戦略・国内常用	
・ 10年後の経営目標	

# 1 産業電池電源事業概要 【事業の軌跡】



**GS 日本電池**  
 高品質な製品開発により、社会に貢献する **発明家精神**



日本電池(株)創業者  
 島津 源蔵

京都河原町工場の大型予備電源  
 出典:島津製作所



東急元住吉変電所  
 出典:川崎市



**1993年:**  
 角形リチウムイオン電池の開発



**2000年代:**  
 クリーンエネルギーの普及に貢献  
 再生可能エネルギー用の蓄電システムを続々と発売




**2021年:**  
 サンケン電気株式会社から社会システム事業を譲受  
 技術力・開発力を融合し、社会システム分野におけるシナジーを創出し、競争力を強化

**1917年:**  
 日本電池(株)設立

**1937年:**  
 日本輸送機(株)設立 電気車の拡大

**2006年:** 初の海外リチウム拠点  
 GS Yuasa Lithium Power Inc. 設立

**1920年代:**  
 電力の安定供給に貢献  
 ビルや社会インフラの予備電源として需要拡大


**1930年代:**  
 水銀整流器の開発  
 災害時の非常用電源としての重要性が高まる

**1970年代:**  
 シール型鉛電池の開発  
 メンテナンスフリーの電池量産化

**2004年**  
 経営統合  
 GSYUASA

**1918年:**  
 湯浅蓄電池製造(株)設立

時代に先駆けて新規事業を開拓する **チャレンジ精神**



湯浅蓄電池製造(株)創業者  
 湯浅 七左衛門

京阪電気鉄道様納入  
 大型予備電源



**1960年代~:**  
 海外拠点の設立  
 1963 Yuasa Battery(Thailand)Pub. Co., Ltd.  
 1966 Siam GS Battery Co., Ltd  
 1977 GS Battery(U.S.A.)Inc.  
 1981 Yuasa Battery(UK)Ltd.  
 1988 Century Yuasa Batteries Pty Ltd.



**2010年代:**  
 港湾AGV(無人搬送車)にリチウムイオン電池を搭載  
 省エネルギー社会に貢献



**2018年:**  
 世界最大規模の蓄電池設備を受注  
 北海道豊富町に設置する世界最大規模約720MWhの蓄電池設備を受注



# 1 産業電池電源事業概要 【事業概要】

産業用途に使用される鉛蓄電池、リチウムイオン電池、電源装置の開発・生産・販売・サービスを展開  
非常用分野、常用分野、電気車分野において、人と社会と地球環境に様々な価値を提供しています



# 1 産業電池電源事業概要 【取扱製品】

## 非常用分野

### 産業用鉛蓄電池



- ・小形制御弁式鉛蓄電池
- ・ベント式据置鉛蓄電池
- ・制御弁式据置鉛蓄電池

### 直流電源装置



- ・一般用
- ・情報通信用
- ・情報通信用  
(汎用型)

### 電気自動車用 充放電器



- ・EVOXシステム

### 産業用リチウムイオン電池



- ・ハイパワータイプ
- ・高エネルギータイプ
- ・DC48V専用モジュール

### ESS※



※Energy Storage System  
電力貯蔵システム

### 交流無停電電源装置(UPS)



- ・準汎用タイプ
- ・個別受注型
- ・パラレルプロセッシング方式
- ・屋外用

### 汎用UPS



- ・リチウム搭載タイプ
- ・据置タイプ
- ・ラックマウントタイプ
- ・管理ソフトウェア

### 鉄道用 電力貯蔵装置



- ・E3 Solution System

### PCS



- ・パワー  
コンディショナ
- ・蓄電システム

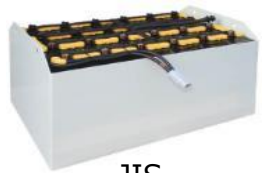
### 遠隔監視、保証サービス 蓄電池監視装置



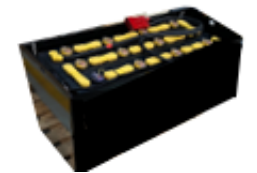
- ・STARELINKサービス
- ・DATAWINDOW-S

## 電気車分野

### 電動車用鉛蓄電池



JIS



DIN

### 小型電動車用鉛蓄電池



液式



制御弁式

### 電動車両(鉛蓄電池)用 充電器

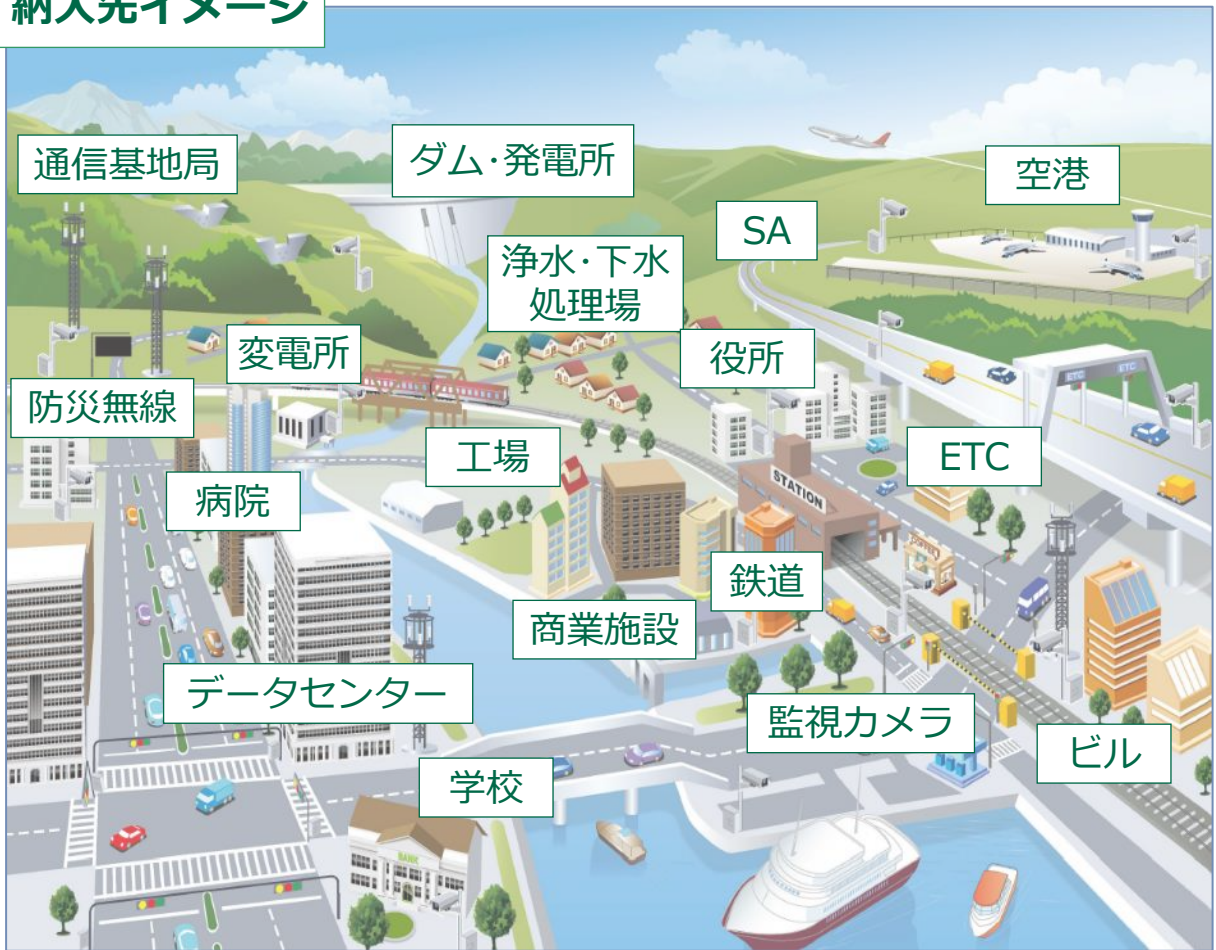


# ① 産業電池電源事業概要 【製品用途：非常用分野(バックアップ用途)】



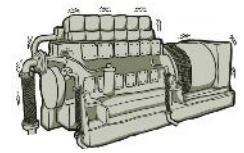
日本全国の幅広い社会インフラへ蓄電池設備を提供し、日本の「安心・安全」に貢献しています

## 納入先イメージ



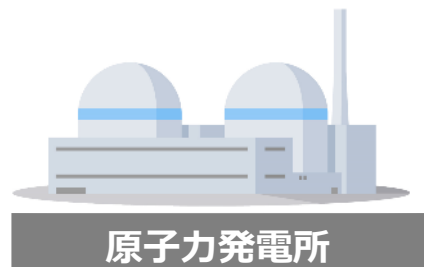
重要な施設・設備には蓄電池設備が必須

～～ 停電時に蓄電池設備が果たす役割一例 ～～



非常照明への給電  
(避難通路を照らす)

発電機の始動  
(非常時電力へ繋ぐ)

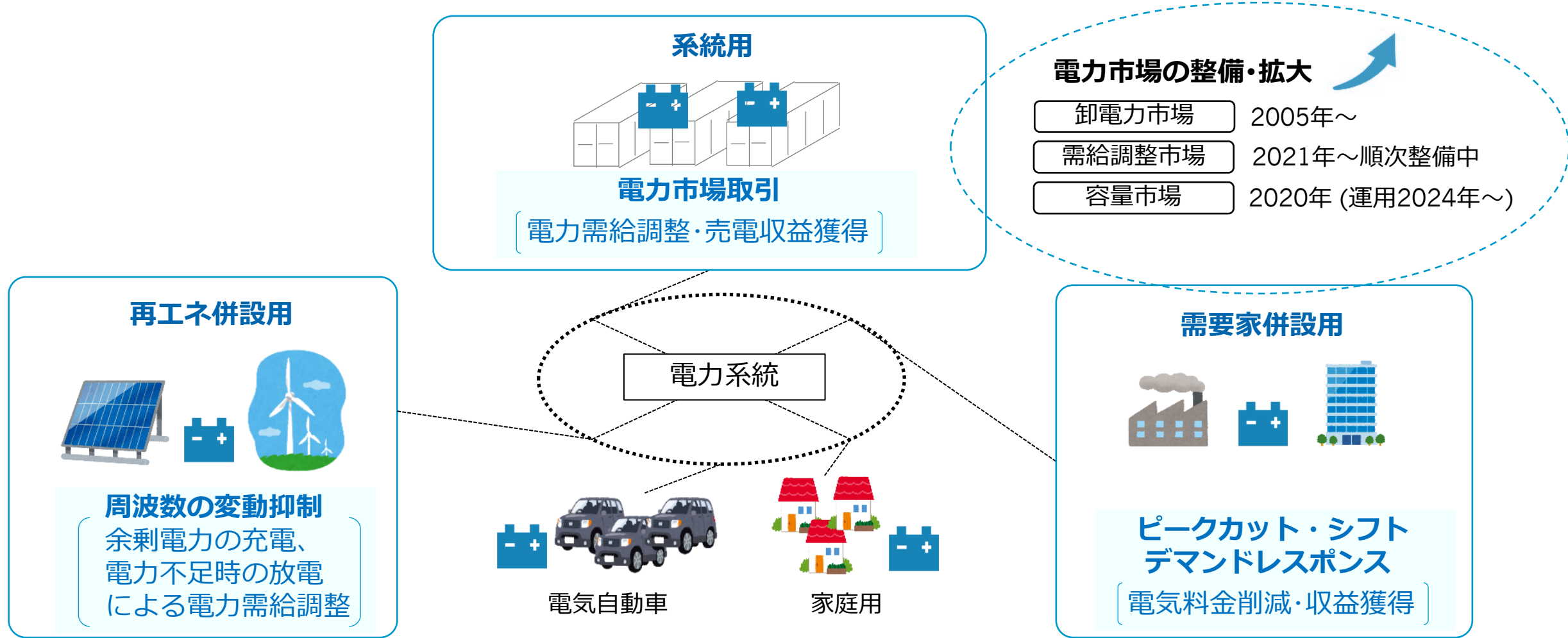


精密機器・重要設備を動かし続ける  
(無瞬断切替給電、災害時の長時間給電、安全停止までの給電)

# ① 産業電池電源事業概要 【製品用途：常用分野(常に充放電する用途)】



急拡大する再生可能エネルギー・電力有効活用対策としてESSを提供し、日本のカーボンニュートラル推進に貢献しています



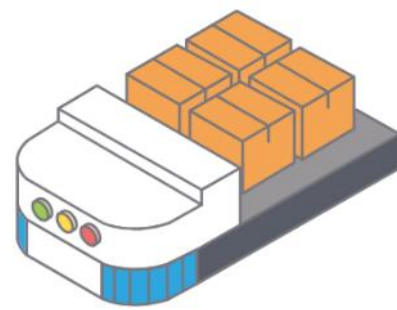
# 1 産業電池電源事業概要 【製品用途：電気車分野(移動体用途)】

様々な移動体に蓄電池を提供し、電動化による環境負荷低減、CO2削減に貢献しています

フォークリフト



AGV (無人搬送車)



ゴルフカート



高所作業車



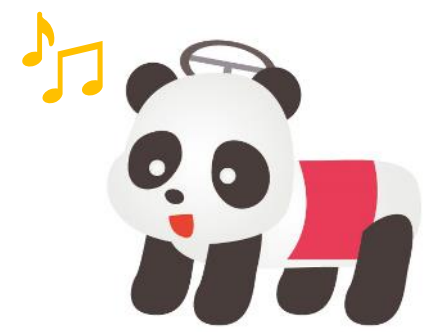
シルバーカー



スイーパー



遊戯車両

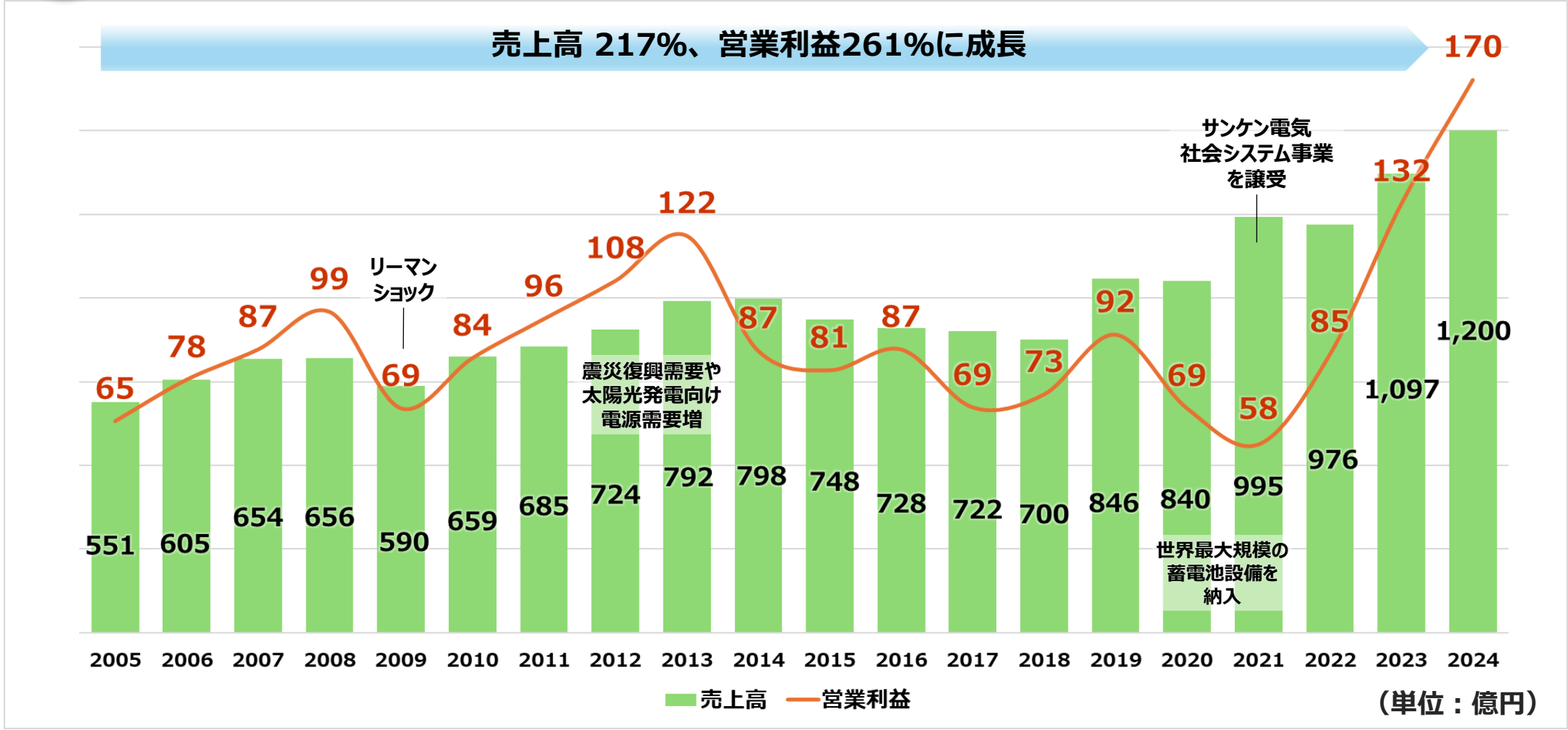
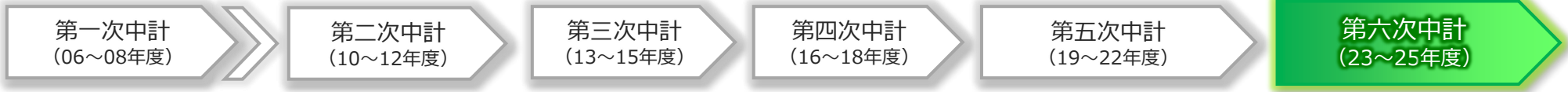


<b>1. 産業電池電源事業概要</b>	<b>4</b>
・ 事業の軌跡	
・ 事業概要	
・ 取扱商品	
・ 製品用途	
<b>2. マーケット動向</b>	<b>11</b>
・ 業績推移	
・ セグメント毎の動向	
<b>3. 中長期戦略</b>	<b>14</b>
・ 市場のトレンド、重点事業の方向性	
・ 個別戦略・国内非常用	
・ 個別戦略・国内常用	
・ 10年後の経営目標	

## 2 マーケット動向

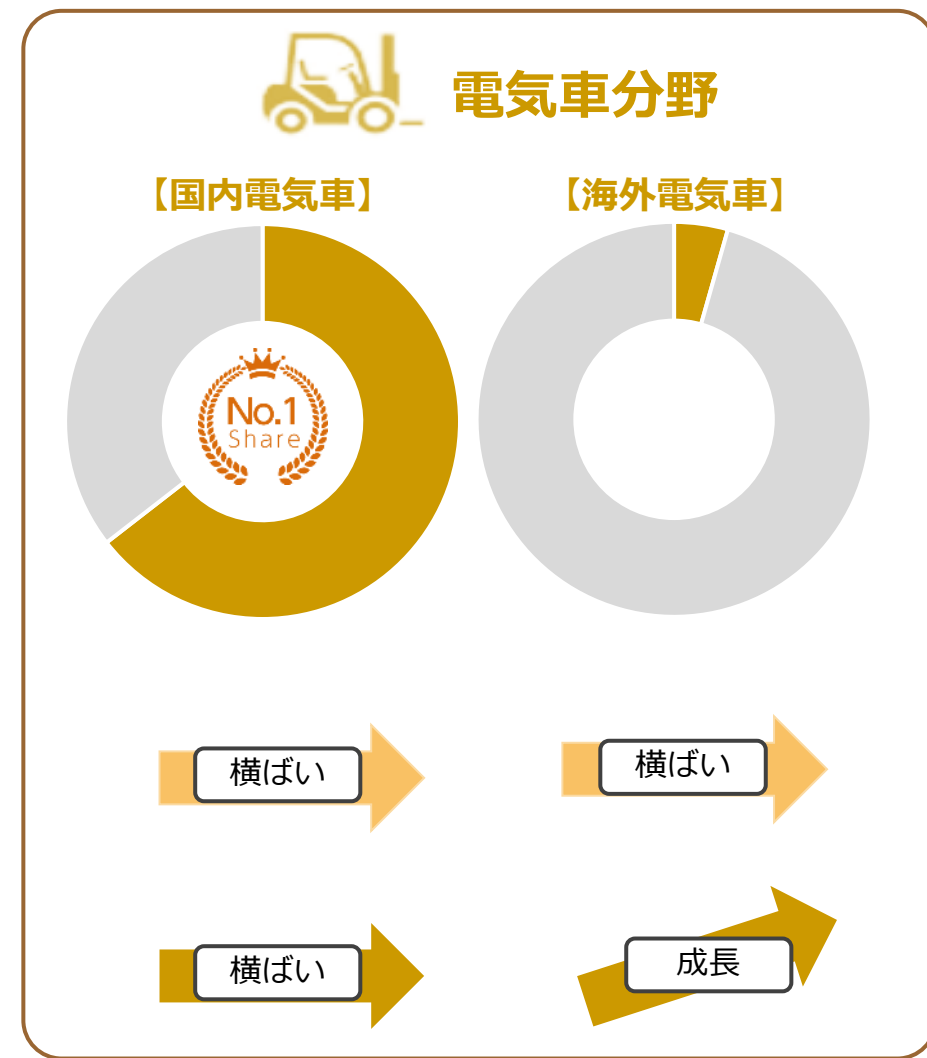
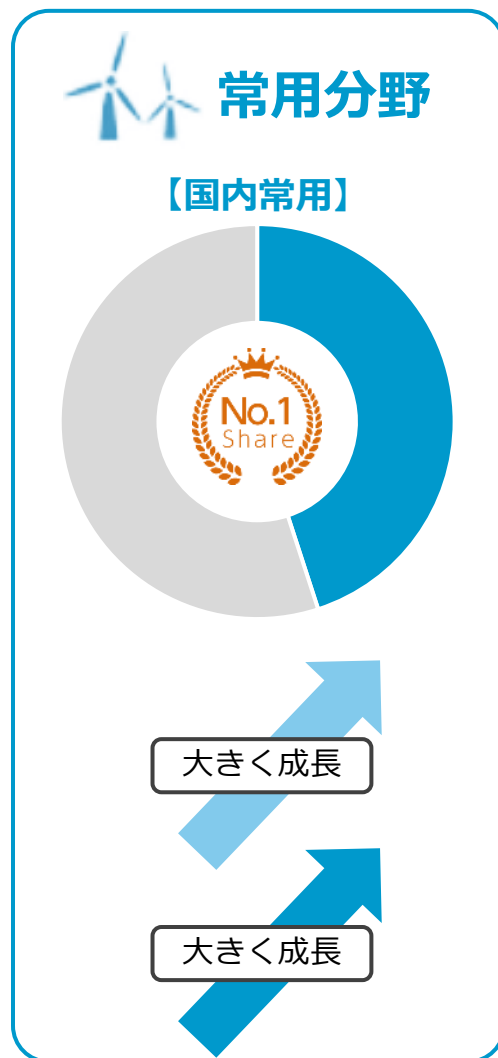
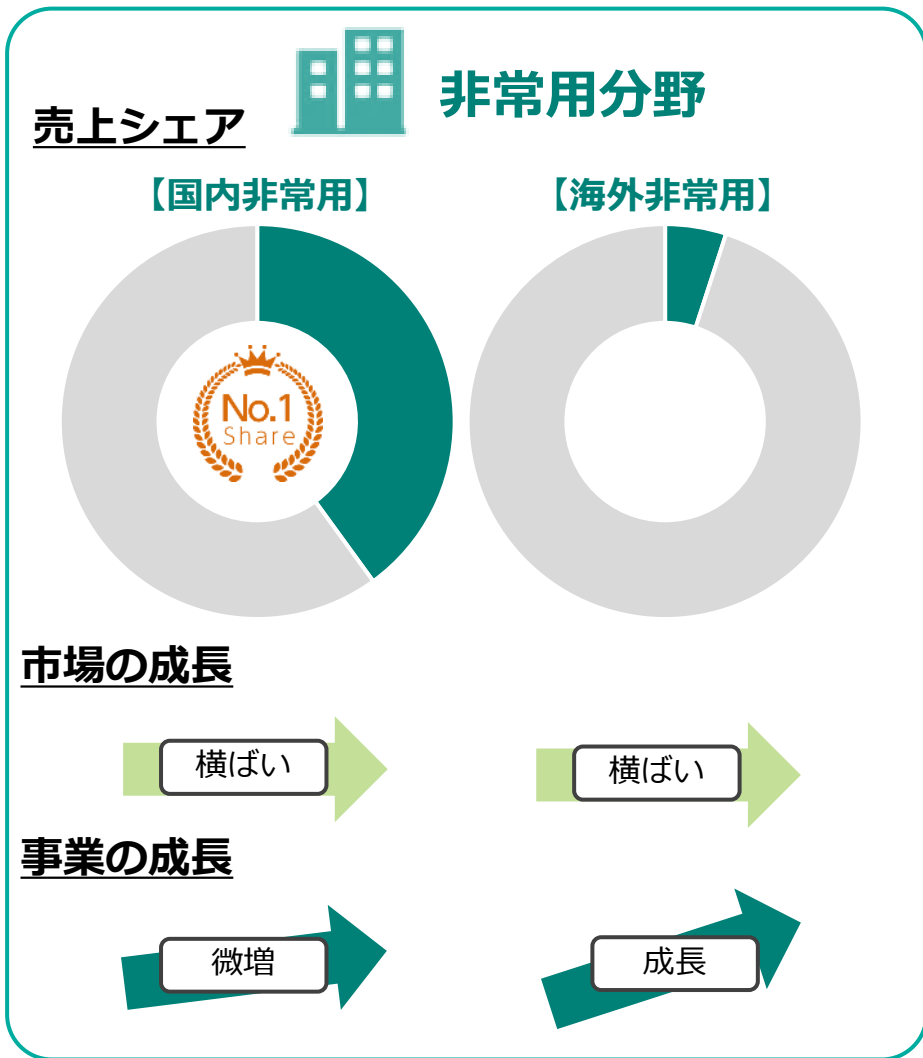
### 【産業電池電源セグメント 業績推移】

経営  
統合



# ② マーケット動向 【各セグメント動向】

※GSユアサ独自調べ



<b>1. 産業電池電源事業概要</b>	<b>4</b>
・ 事業の軌跡	
・ 事業概要	
・ 取扱商品	
・ 製品用途	
<b>2. マーケット動向</b>	<b>11</b>
・ 業績推移	
・ セグメント毎の動向	
<b>3. 中長期戦略</b>	<b>14</b>
・ 市場のトレンド、重点事業の方向性	
・ 個別戦略・国内非常用	
・ 個別戦略・国内常用	
・ 10年後の経営目標	

# 3 中長期戦略

## ■ 市場のトレンド

カーボンニュートラル

激甚災害・防災

IoT・DX・AI

エネルギーミックス

経済安全保障

## ■ 当社の強み

- ✓ 市場での長期稼働実績、圧倒的なシェアと納入台数
- ✓ 幅広い分野で多数の大企業を顧客層、日本全国の代理店網
- ✓ 高い信頼性の製品（鉛電池においては100年以上、産業用リチウムイオン電池は20年以上の市場実績）
- ✓ 幅広い製品ラインアップと顧客ニーズに応えるカスタム技術力
- ✓ 全国のフィールドサービス網による保守と緊急時の迅速な対応力（全国には約1,000名以上の技術スタッフ）

## ■ 重点事業の方向性



### 国内非常用

防災対応やIoT社会深化による需要増がある一方、人口減少に伴う社会インフラ減少や電気機器の省電力化による需要減もあり市場規模は横ばい。当社の強みが優位性に繋がりシェアNo1

市場での圧倒的な優位性を維持することで、事業の規模を維持しつつ事業の効率性を上げる



### 国内常用

政府のカーボンニュートラル推進に伴い市場規模は大きく成長。国産電池メーカーとしては圧倒的優位性をもつ。一方で、競合の海外メーカーと比較して規模やコスト面で劣後している。

製品性能向上に加え、量産体制の整備と更なるコストダウンにより、産業用途として第二の事業の柱へ成長させる

# 3 中長期戦略・国内非常用

## 激甚災害・防災対応としての蓄電池設備ニーズ

南海トラフ地震リスク増

国土強靱化政策

社会インフラ老朽化対応

守るべき重要設備の増加

日本全国で蓄電池設備の新設・更新需要が高水準で推移

- ✓ 日本全国の販売代理店網やその取引先、大手中間顧客との連携による新規需要獲得
- ✓ 日本全国のサービス拠点網によるメンテナンス、全国販売網での既存設備の更新提案による更新需要獲得

## エネルギーミックス・経済安全保障としての蓄電池設備ニーズ

原子力発電用

- ・高安全性・高信頼性のある特殊蓄電池設備が必要
- ・基幹インフラ用途には国産品が望まれる



再稼働済	許可	申請中	未申請	廃炉
14基	3基	10基	9基	24基

※原子力規制委員会HP・電気事業連合HPより

- ✓ 過去より培ってきた技術力・カスタム力にて需要獲得
- ✓ 日本全国のサービス拠点網によるメンテナンスにて安全を提供

# 3 中長期戦略・国内非常用

## 次世代社会インフラに対する蓄電池設備ニーズ

次世代通信

- ・「5G」、「6G」用設備
- ・新基地局用設備 など

次世代交通

- ・「次世代高速鉄道」用設備
- ・「自動運転」用設備 など

技術革新により新たな重要インフラが整備されるのに伴い、重要インフラを守る**新しい**蓄電池設備の需要が生まれる

- ✓ 当社の過去実績、技術力、顧客との良好な関係により求められるニーズに対応した製品を開発・提供

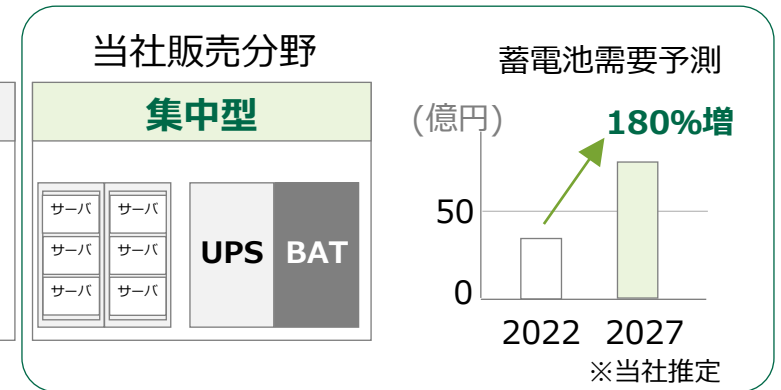
## IoT深化、DX・AI拡大に伴う蓄電池設備ニーズ

IoT深化  
DX・AI拡大

通信量増加  
クラウド化

データセンタの  
需要増加

サーバ向けUPS用蓄電池需要増



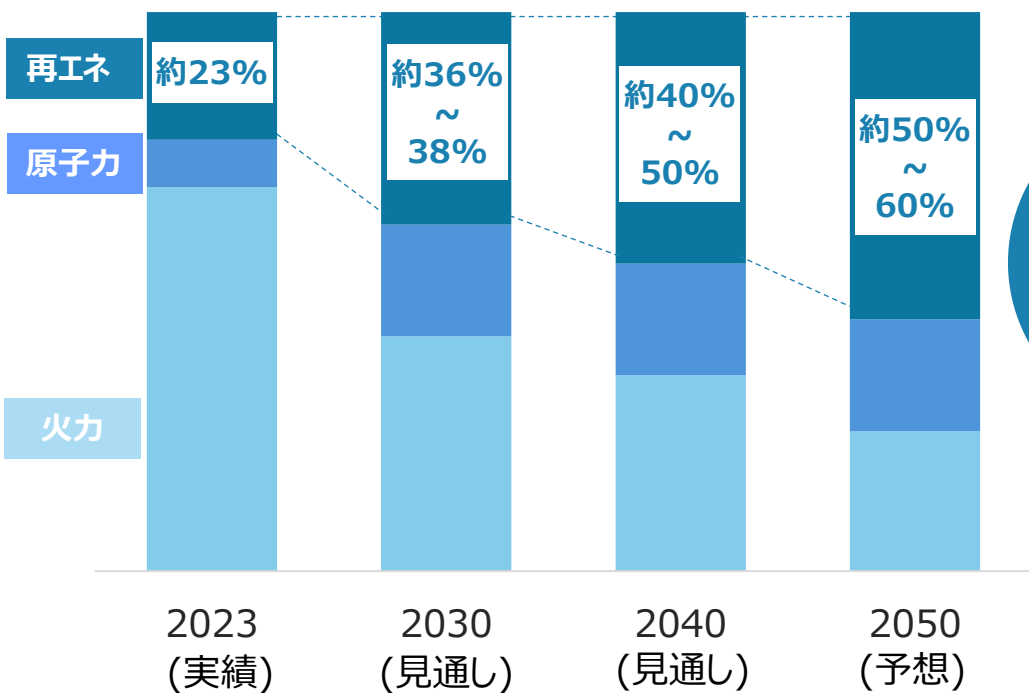
- ✓ 外資系DC事業者が安価な海外鉛電池を採用するケースもあるが、コストと品質を重視するケースも多く、高品質な国産鉛蓄電池にて需要獲得
- ✓ より低コストの鉛蓄電池をラインナップ化し、より広範なニーズに対応

# 3 中長期戦略・国内常用

## 2050年カーボンニュートラル実現に向けた蓄電池ニーズ

- ✓ 電力需要や再エネ発電量は変動するため、需給バランスの調整力が必要
- ✓ リチウムイオン蓄電池は、短周期、中周期の需給変動対策に有効なことから系統用、再エネ併設用、需要家用の大半を占める。
- ✓ 電力市場の整備拡大により、系統用蓄電池の市場が急速に拡大

### 第7次エネルギー基本計画



2050年には再生可能エネルギーが50%を上回る想定

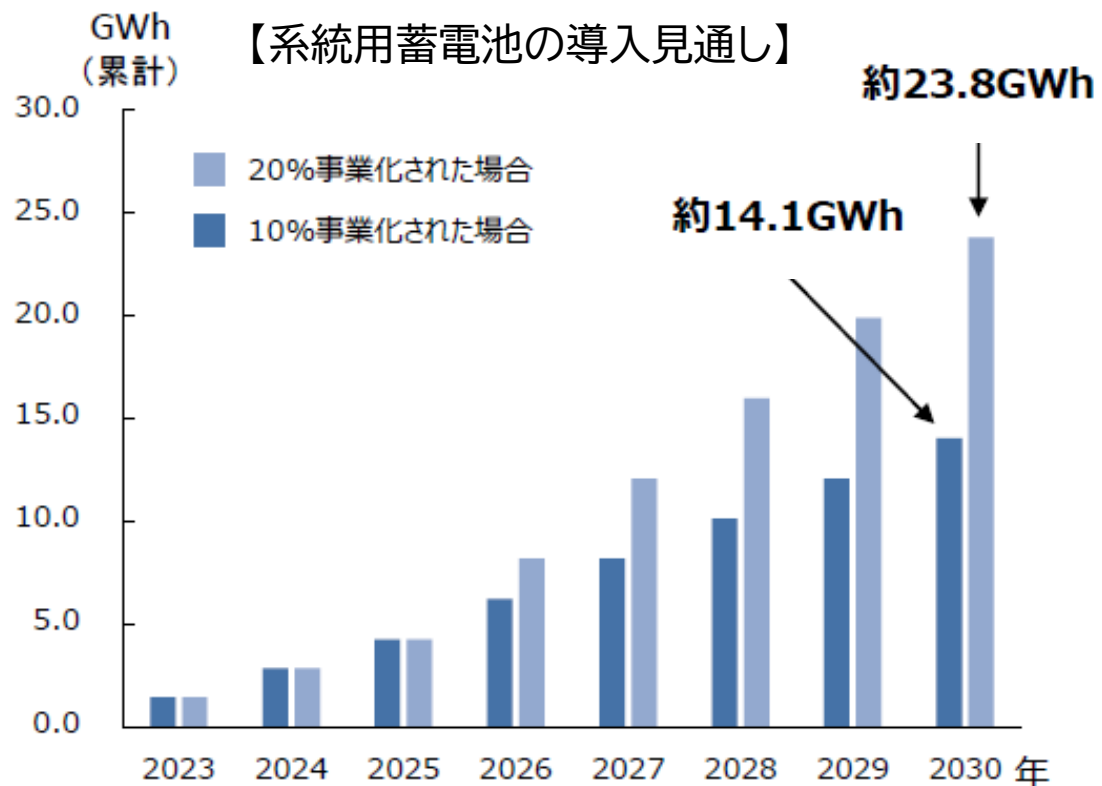
### 電力市場

電源等の価値	取引される価値(商品)	取引される市場
電力量 【kWh価値】	実際に発電された電気 電気が安い時に充電し、高い時に放電する事で根差を収益化	卸電力市場
容量 (供給力) 【kW価値】	発電することが出来る能力 需給ひっ迫時の為に、蓄電池を設置し、容量維持する事で対価を得る	容量市場
調整量 【ΔkW価値】	短時間で需給調整できる能力 需給バランス調整のため、電力不足時に電池から放電する事で対価を得る	需給調整市場

# 3 中長期戦略・国内常用

## 蓄電池への政府支援が加速

- ✓ 国内製造基盤を150GWhまで拡大
- ✓ 定置用蓄電池導入補助金等による国内市場創出、導入促進



## 政府支援策（2024年度現在） ※全てメーカーではなく事業者への支援策

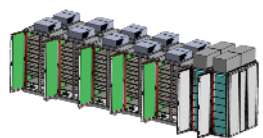
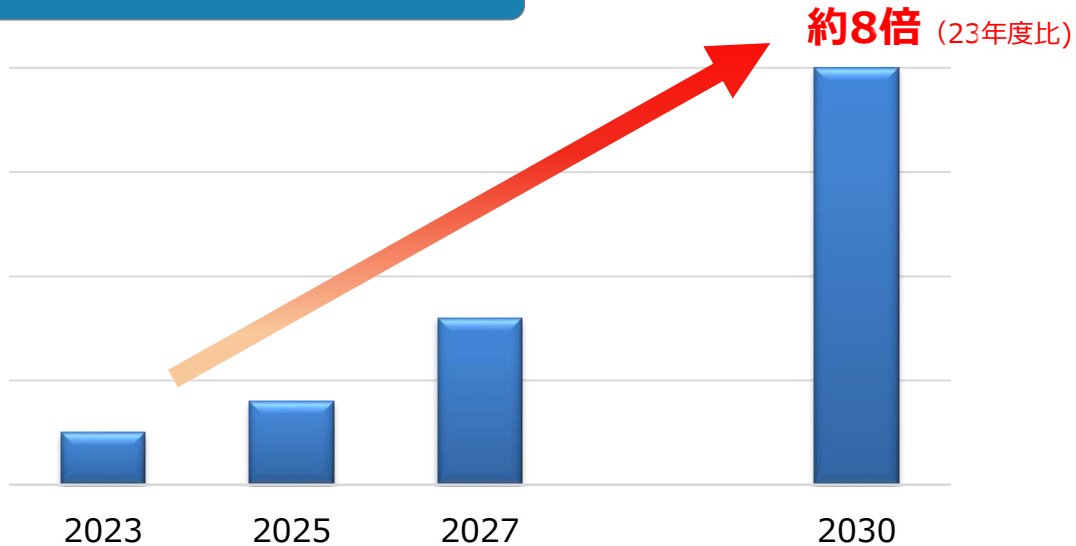
用途(目的)	内容等	時期	支援額等
蓄電ビジネス (電力市場取引)	システム用蓄電池補助金	2027年迄	400億円 1.3GWh
	長期脱炭素電源オークション	継続予定 (期間未定)	800億円 4GWh
	東京都システム用蓄電池補助金	2030年迄	130億円 0.6GWh
再エネ併設 (FIP転・周波数調整)	再エネ電源併設型蓄電池支援	継続予定 (期間未定)	160億円 0.5GWh
需要家設置 (電気代削減、BCP)	DR対応蓄電池(業務産業用)	継続予定 (期間未定)	15億円 0.1GWh

## 導入事例



# 3 中長期戦略・国内常用

## 販売容量拡大目標



コンテナESS  
蓄電池  
+  
STARELINK  
サービス※

All in Oneビジネス  
蓄電池  
+  
STARELINK  
サービス※  
+  
PCS

次世代ESS

さらなる  
競争力強化

※当社の提供する「遠隔監視」「解析・診断」「保守・保全」「容量保証」のサービス

## GSユアサの優位性

- ✓ 市場での**長期稼働実績**を有する（1999年より稼働）
- ✓ 日本の蓄電池産業に貢献するべく蓄電池セルからシステムまでを**日本国内で自社生産**
- ✓ 独自の優れた耐熱焼構造による高い安全性を実現  
市場における**発火・発煙事故はゼロ**
- ✓ 全セル電圧・全モジュール温度を遠隔で常時監視  
長年蓄えたセル劣化挙動の知見を活かした独自の劣化推定技術で、15~20年後もシステムの**長期安定稼働を保証**することが可能
- ✓ **全国にサービス拠点**を設けており、蓄電池設備の異常発生時にはSTARELINKサービス※センターとの連携により迅速な対応が可能
- ✓ 広域認定処理制度が開始された2008年より認定取得  
**日本国内の産業廃棄物リサイクルに長期貢献**

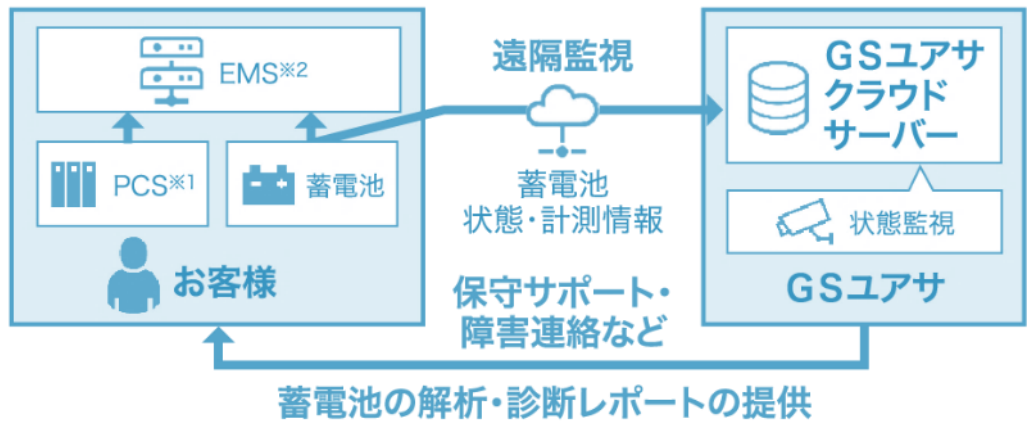
## 課題

- ✓ 海外低価格製品の大量流入・価格競争の激化
- ✓ 経済安全保障リスクの高まり  
(海外原材料の安定供給不安、電力インフラでのESS遠隔操作 等)

## STARELINKサービス

✓ 弊社独自の遠隔監視と、予測・予兆技術やビッグデータを組み合わせることで、お客様の蓄電システム・蓄電池設備を全方的に見守り、安心・安全・安定稼働の実現に向けた、さまざまなサービスを提供

### サービスイメージ



※1 パワーコンディショナ ※2 エネルギーマネジメントシステム



特許6822624号 特許7207439号

### フィールドサービス網

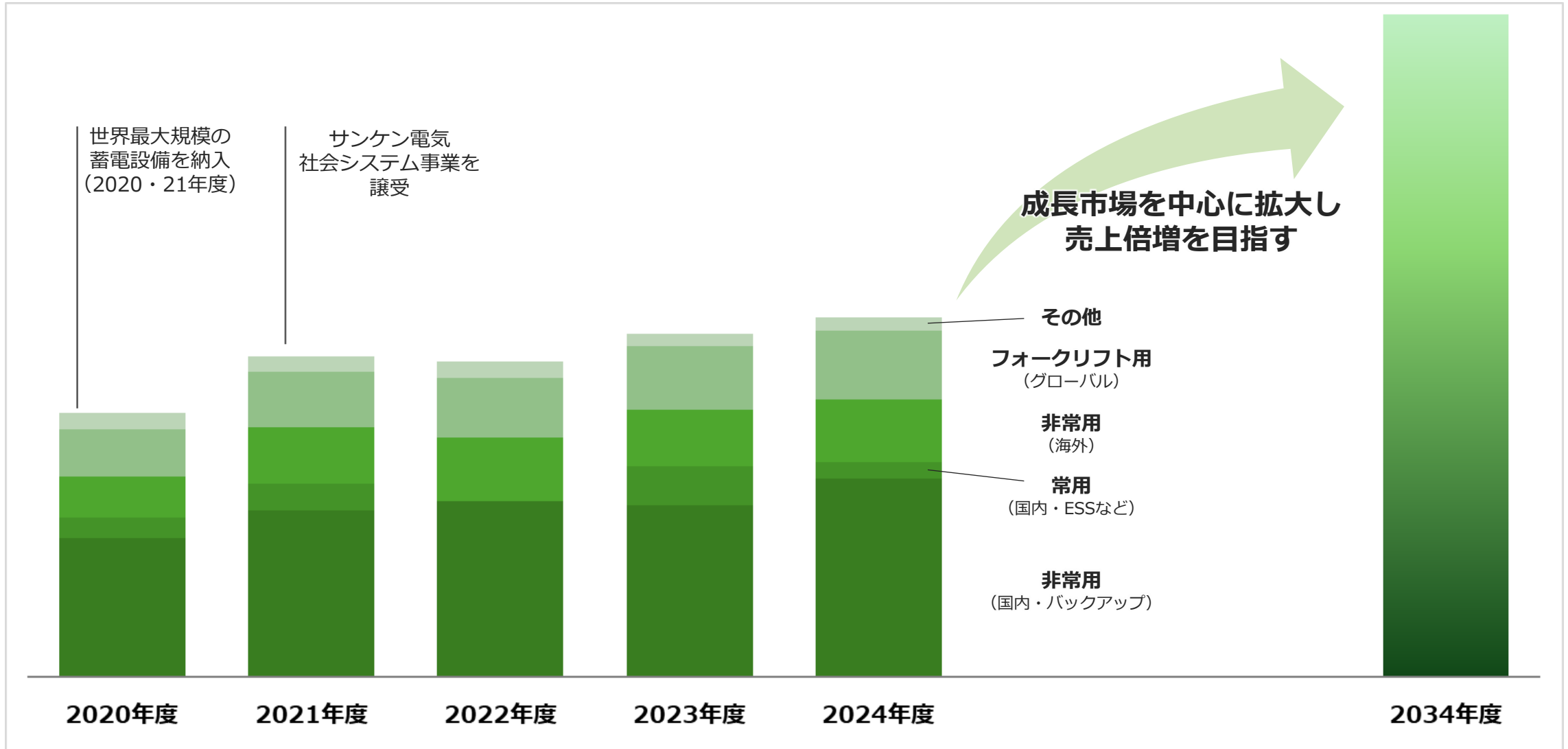
- 直営のサービス拠点 (Directly operated service base)
- 子会社のサービス拠点 (Subsidiary service base)
- 子会社以外のサービス拠点 (Service base outside subsidiaries)



全国にサービス拠点を設けており、蓄電池設備の異常発生時にはSTARELINKサービスセンターとの連携により迅速な対応が可能

**サービス拠点 : 全国100か所以上**

# 3 中長期戦略 10年後の経営目標（ありたい姿）



本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。



連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション  
コーポレート室（広報） 青木 裕・西島 務・田中 祥太・神田 文  
Tel : 075-312-1214  
<https://www.gs-yuasa.com/jp>